

## 2-4 危機管理対策

### (1) 浄水場の耐震化や水道管の耐震強化などの取組の認知度

問7 水道局では、震災や事故などに備えて、浄水場の耐震化や水道管の耐震強化（※1）、管路のネットワーク化（※2）などを進めています。あなたは、この取組についてご存知ですか。

（※1）耐震性の低い水道管を耐震性の高い管に取り替えています。

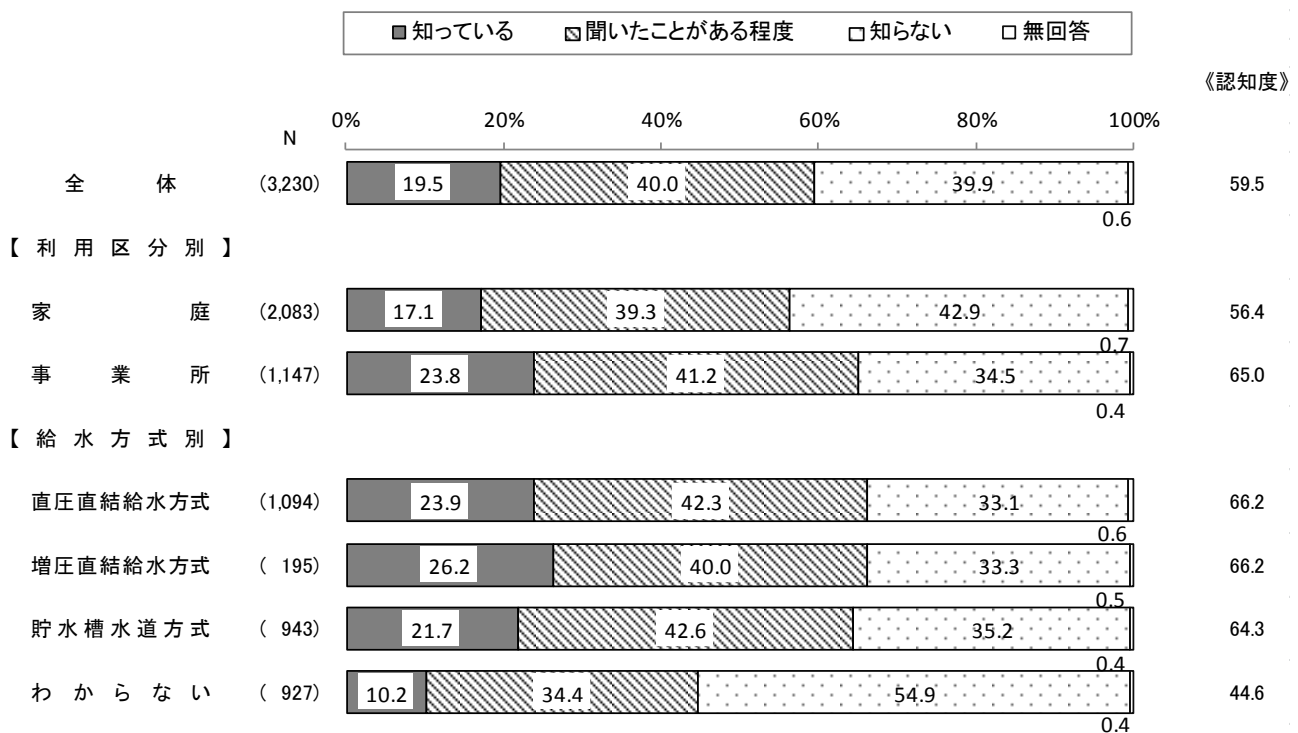
（※2）震災等により水道管路に異常があった場合でも、断水・濁水を最小限に止めるために、他の系統からの給水を可能にするための管路の整備拡充を図っています。

1 知っている                      2 聞いたことがある程度                      3 知らない

#### [調査結果]

#### ① 浄水場の耐震化や水道管の耐震強化などの取組の認知度（利用区分別、給水方式別）

<図表2-4-1>

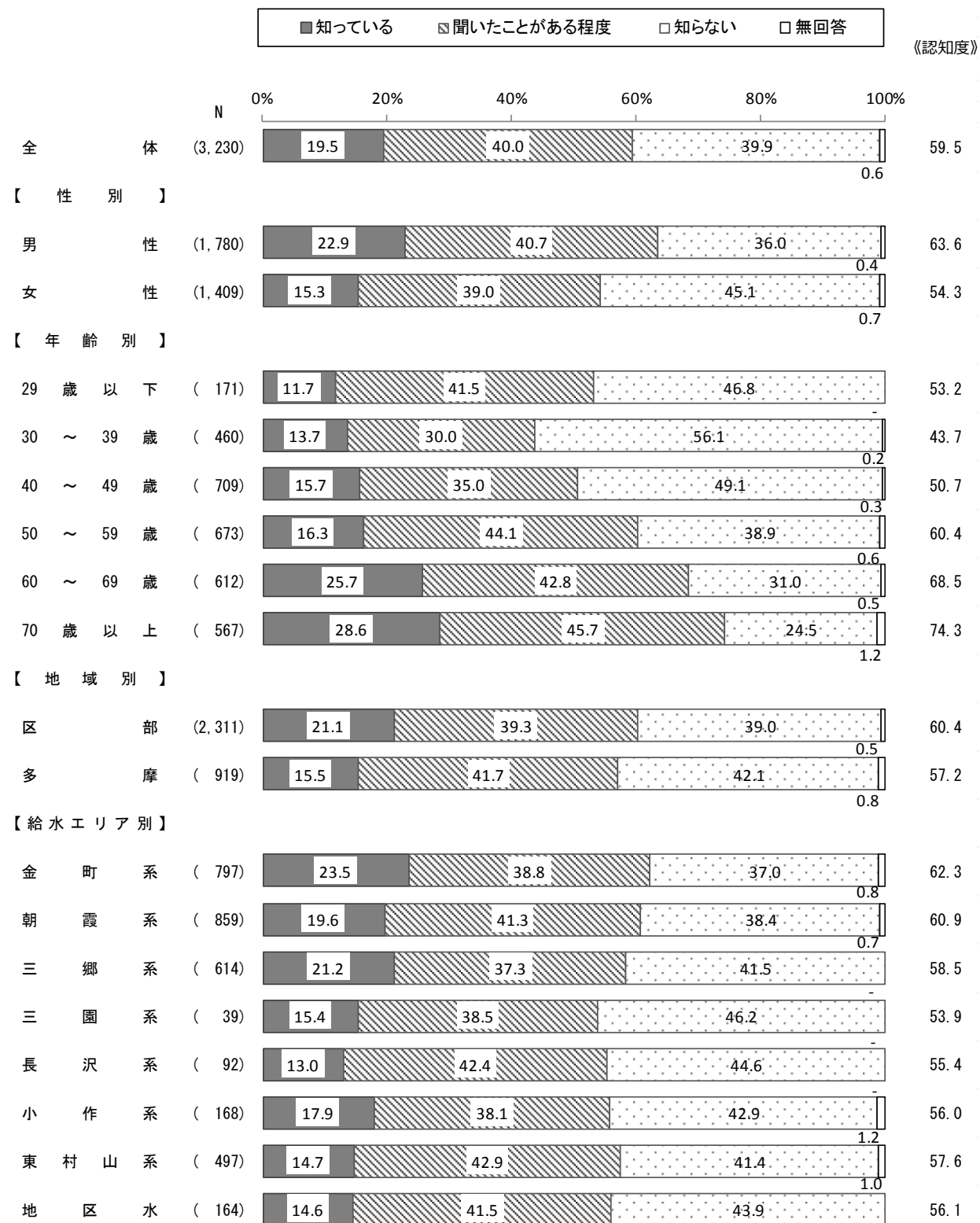


<特徴>

○利用区分別では、《認知度》は、事業所（65.0%）の方が家庭（56.4%）より8.6ポイント高くなっている。

② 浄水場の耐震化や水道管の耐震強化などの取組の認知度（属性別、給水エリア別）

〈図表 2-4-2〉

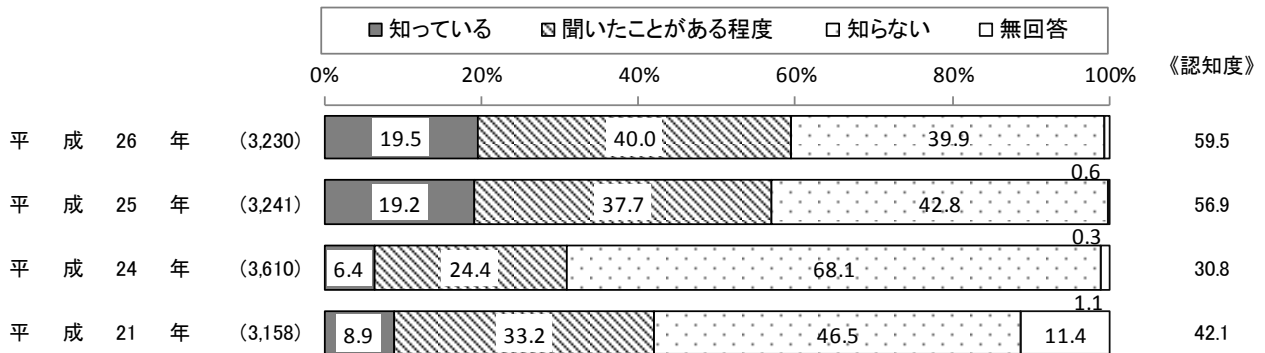


〈特徴〉

○年齢別では、《認知度》は、30～39歳（43.7%）が最も低く、唯一5割を下回るものの、以降は年齢が上がるにつれて高くなり、70歳以上（74.3%）で最も高くなっている。

○給水エリア別では、《認知度》は、いずれも5割を上回っており、特に、金町系（62.3%）と朝霞系（60.9%）で高くなっている。

③ 浄水場の耐震化や水道管の耐震強化などの取組の認知度（時系列：全体）〈図表 2-4-3〉



〈特徴〉

○時系列（全体）では、《認知度》が、今回の調査（59.5%）は平成25年度調査（56.9%）を若干上回り、ほぼ6割に達している。

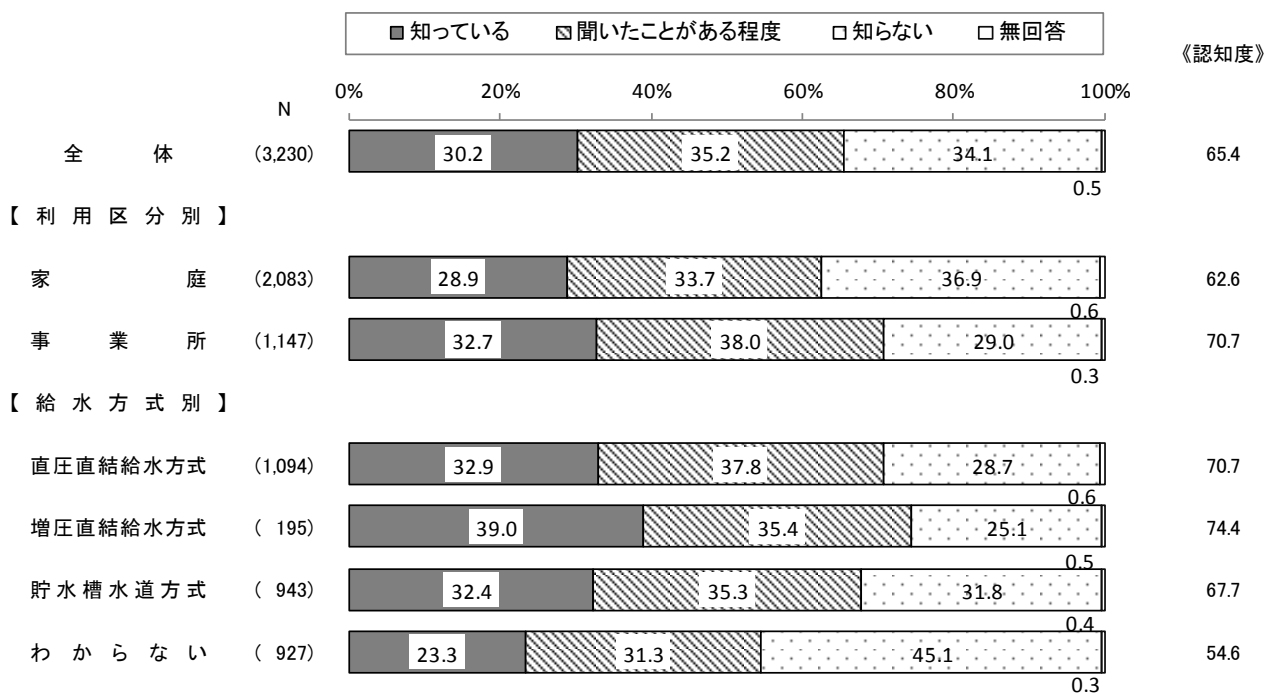
（2）大規模浄水場の老朽化が進んでいることの認知度

問 8 東京都の大規模浄水場は、昭和30年代後半からの高度経済成長期の需要増に対応するために整備されたものが多く、現在老朽化が進んでいることについてご存知ですか。

1 知っている                      2 聞いたことがある程度                      3 知らない

〔調査結果〕

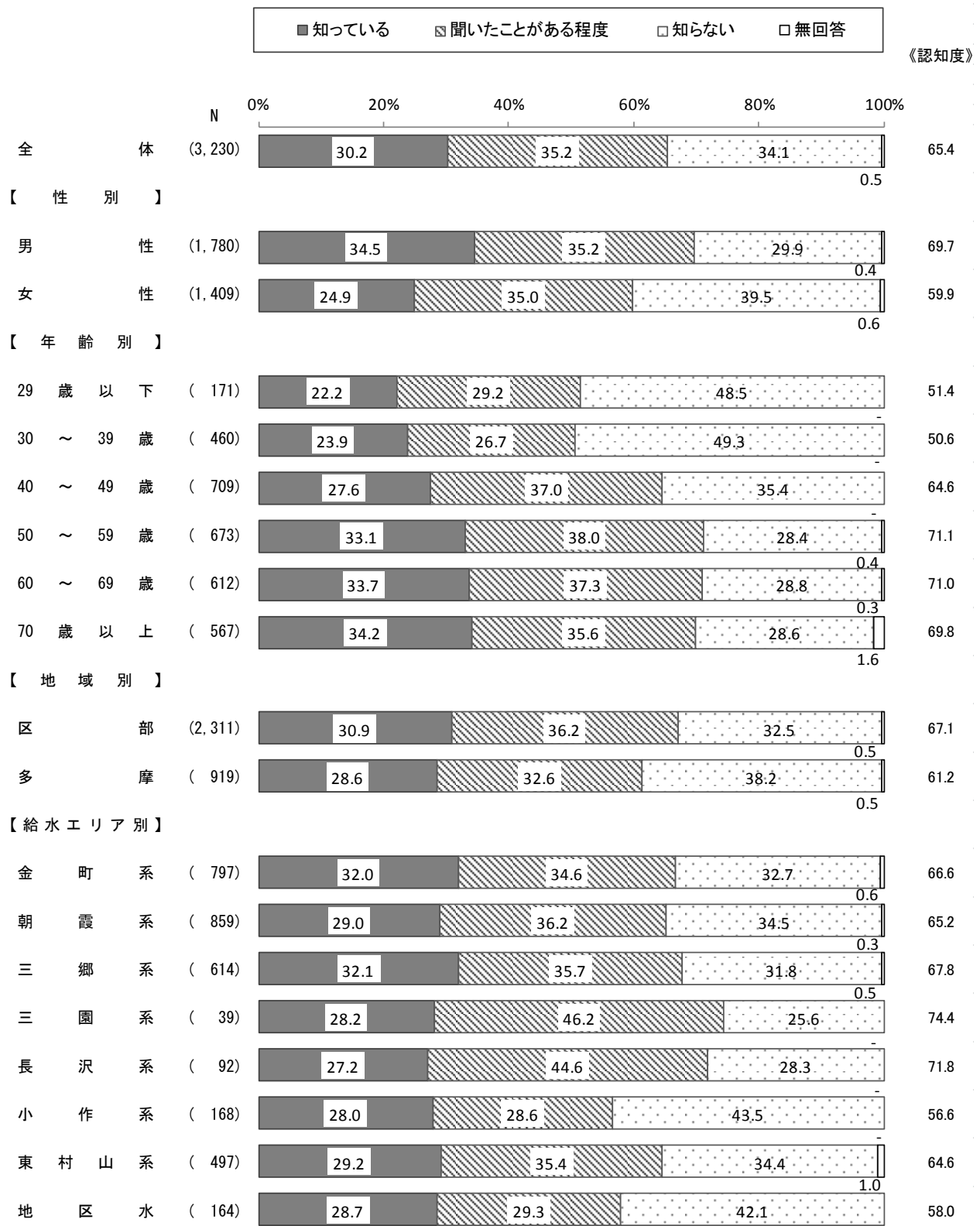
① 大規模浄水場の老朽化が進んでいることの認知度（利用区分別、給水方式別）〈図表 2-4-4〉



〈特徴〉

○利用区分別では、《認知度》は事業所（70.7%）が家庭（62.6%）を8.1ポイント上回っている。

② 大規模浄水場の老朽化が進んでいることの認知度（利用区分別、給水方式別）〈図表 2-4-5〉

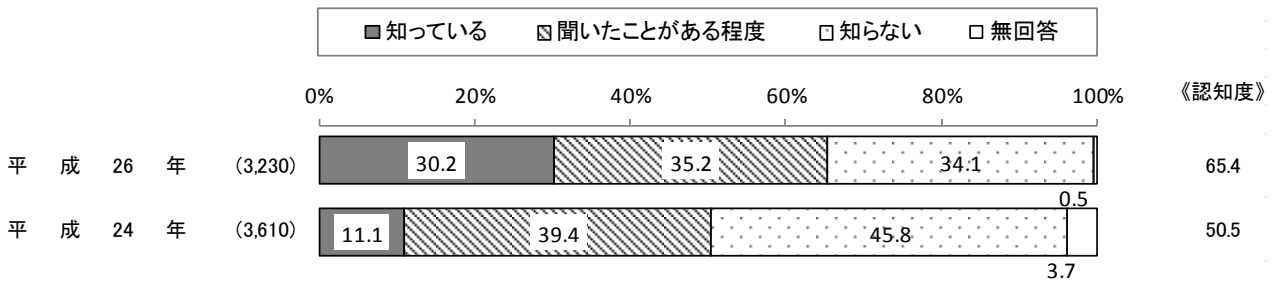


〈特徴〉

○年齢別では、《認知度》は、29歳以下（51.4%）、30～39歳（50.6%）では半数程度にとどまっているが、50～59歳（71.1%）、60～69歳（71.0%）では7割強と高くなっている。

○給水エリア別では、《認知度》は、三園系（74.4%）長沢系（71.8%）で高くなっている。

③ 大規模浄水場の老朽化が進んでいることの認知度（時系列：全体）〈図表2-4-6〉



〈特徴〉

○時系列では、《認知度》は、今回の調査（65.4%）が平成24年度調査（50.5%）を14.9ポイントと大幅に上回っている。

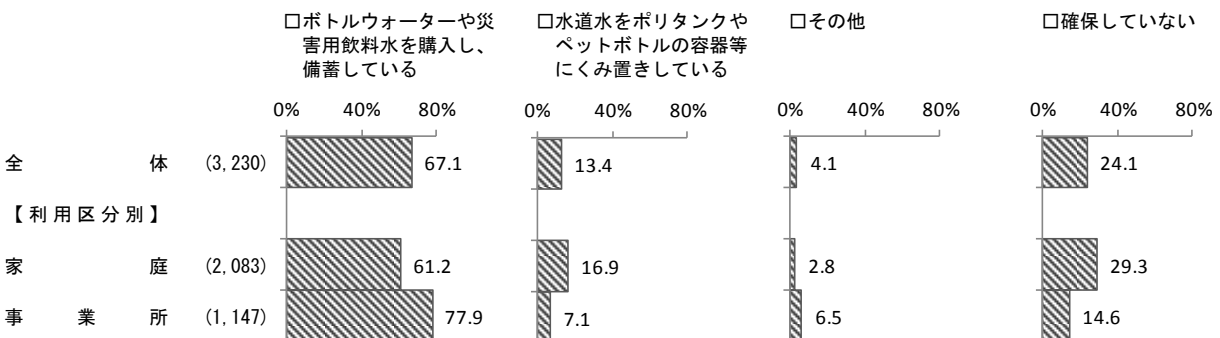
（3）震災等に備えた「飲料水」の確保状況

問9 ご自宅又は事業所等で、日頃から震災等に備えて、「飲料水」をどのような方法で確保していますか。次の中からいくつでも選び、番号に○をつけてください。

- 1 水道水をポリタンクやペットボトルの容器等にくみ置きしている
- 2 ボトルウォーターや災害用飲料水を購入し、備蓄している
- 3 その他（ ）
- 4 確保していない

[調査結果]

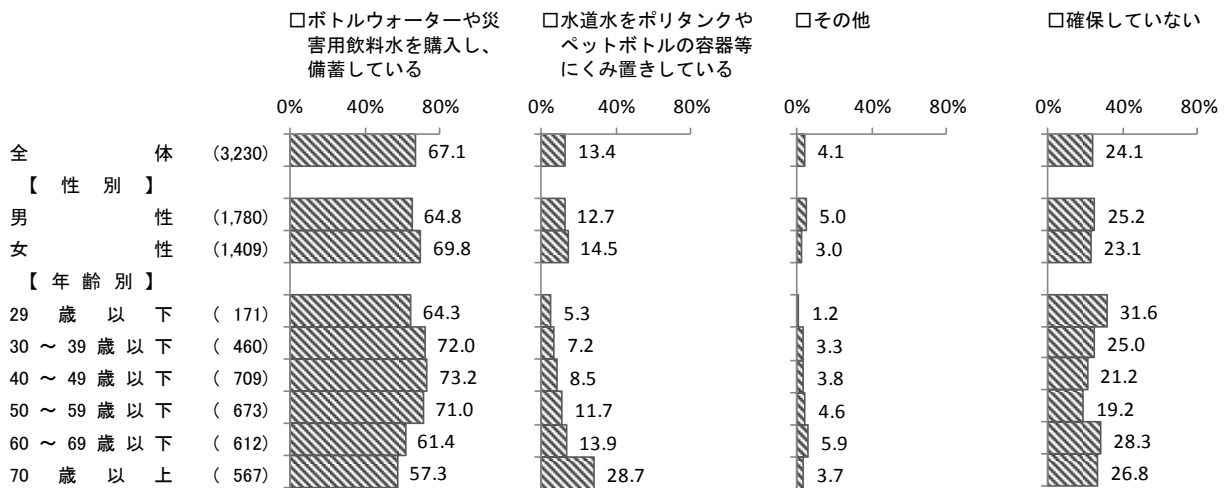
① 震災等に備えた「飲料水」の確保状況（複数回答）（利用区分別）〈図表2-4-7〉



〈特徴〉

○利用区分別では、「ボトルウォーターや災害用飲料水を購入し、備蓄している」は、事業所（77.9%）が家庭（61.2%）より16.7ポイント高くなっている。逆に、「水道水をポリタンクやペットボトルの容器等にくみ置きしている」は、家庭（16.9%）の方が事業所（7.1%）より9.8ポイント高くなっている。また、「確保していない」についても、家庭（29.3%）の方が事業所（14.6%）より14.7ポイント高くなっている。

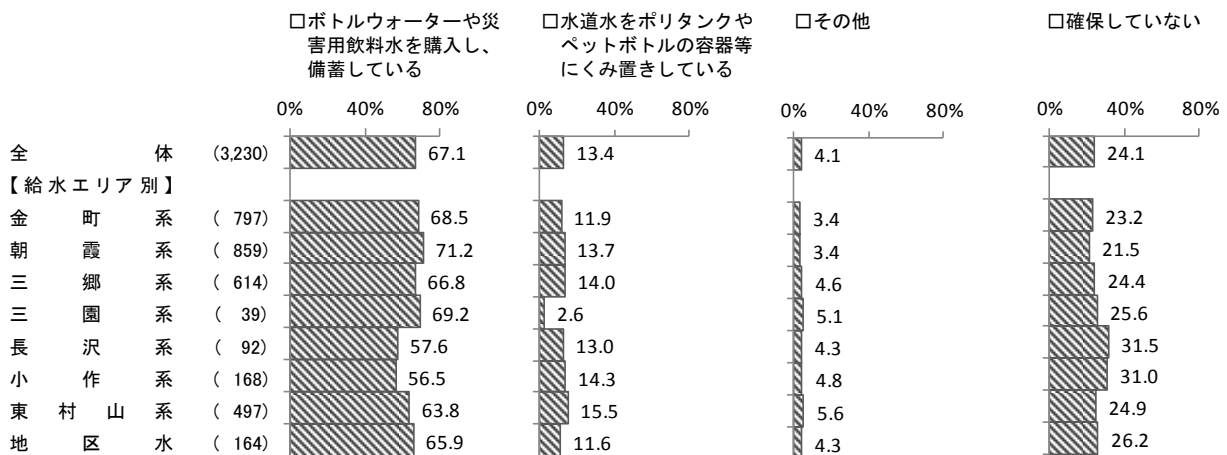
② 震災等に備えた「飲料水」の確保状況（複数回答）（属性別）〈図表2-4-8〉



〈特徴〉

○年齢別では、「ボトルウォーターや災害用飲料水を購入し、備蓄している」は、40～49歳（73.2%）で最も高く、次いで30～39歳（72.0%）、50～59歳（71.0%）となっている。「水道水をポリタンクやペットボトルの容器等にくみ置きしている」は、年齢が上がるにつれ割合が高くなっている。一方、「確保していない」は、29歳以下（31.6%）で最も高くなっている。

③ 震災等に備えた「飲料水」の確保状況（複数回答）（給水エリア別）〈図表2-4-9〉

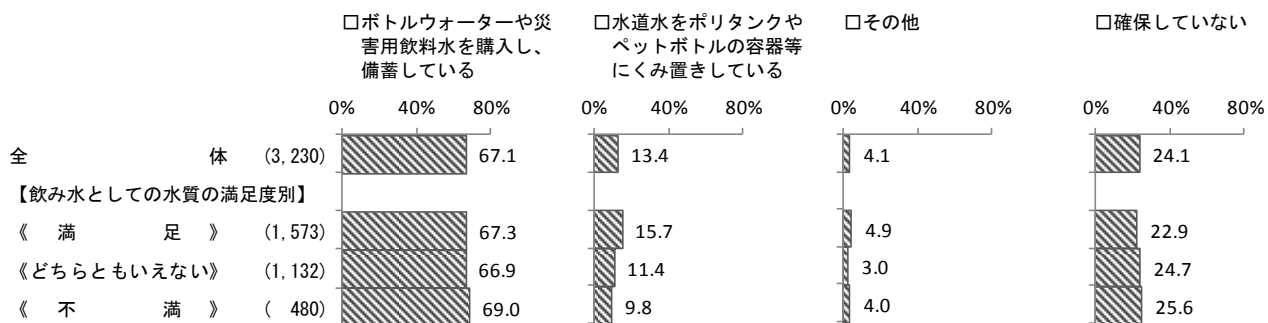


〈特徴〉

○給水エリア別では、「ボトルウォーターや災害用飲料水を購入し、備蓄している」は、朝霞系（71.2%）、三園系（69.2%）、金町系（68.5%）で高くなっている。一方、「確保していない」は、長沢系（31.5%）、小作系（31.0%）で高くなっている。

[詳細分析]

飲み水としての水質の満足度と震災等に備えた「飲料水」の確保状況<図表2-4-10>



<特徴>

○震災等に備えた「飲料水」の確保状況について、飲み水としての水質の満足度別で見ると、「ボトルウォーターや災害用飲料水を購入し、備蓄している」では《満足》《不満》にほとんど差はないが、「水道水をポリタンクやペットボトルの容器等にくみ置きしている」では、飲み水としての水質に《満足》と回答した人（15.7%）の方が《不満》と回答した人（9.8%）よりも5.9ポイント高くなっている。

(4) 震災等に備えて「飲料水」を確保していない理由

<問9で「4 確保していない」と回答した方のみ、にお尋ねします。>

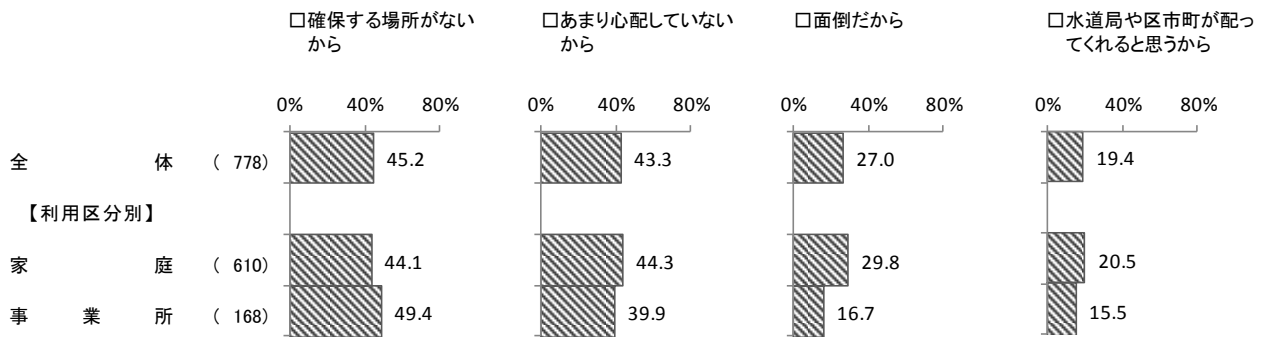
問9-1 飲料水を確保していない理由は何ですか。次の中からいくつでも選び、番号に○をつけてください。

- 1 あまり心配していないから
- 2 面倒だから
- 3 確保する場所がないから
- 4 水道局や区市町が配ってくれると思うから

[調査結果]

① 震災等に備えて「飲料水」を確保していない理由（複数回答）（利用区分別）

<図表2-4-11>

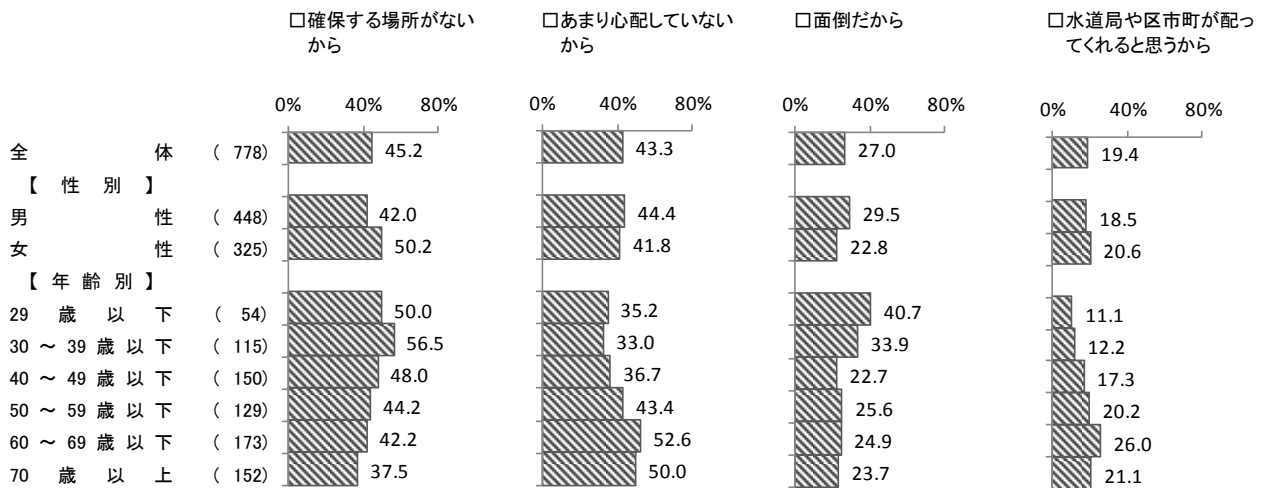


<特徴>

○利用区分別では、「確保する場所がないから」は事業所（49.4%）の方が、家庭（44.1%）よりも5.3ポイント高い。一方、「あまり心配していないから」は家庭（44.3%）の方が事業所（39.9%）より4.4ポイント、「面倒だから」は家庭（29.8%）の方が事業所（16.7%）より13.1ポイント高い。



② 震災等に備えて「飲料水」を確保していない理由（複数回答）（属性別）〈図表2-4-12〉

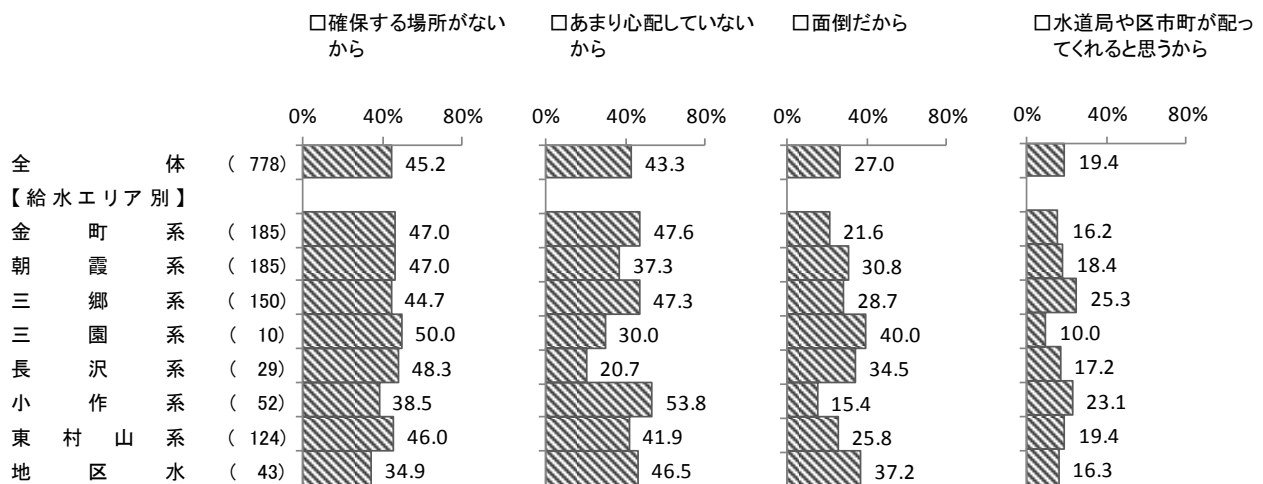


〈特徴〉

○年齢別では、「確保する場所がないから」は、30～39歳(56.5%)で最も高く、次いで29歳以下(50.0%)となっている。「面倒だから」も、29歳以下(40.7%)がトップ、30～39歳(33.9%)がこれに次いでおり、若年層で高い。一方、「あまり心配していないから」は60～69歳(52.6%)で最も高く、次いで70歳以上(50.0%)となっており比較的高年層で高くなっている。

③ 震災等に備えて「飲料水」を確保していない理由（複数回答）（給水エリア別）

〈図表2-4-13〉



〈特徴〉

○給水エリア別では、「確保する場所がないから」は金町系・朝霞系(各47.0%)で、「あまり心配していないから」は小作系(53.8%)で、それぞれ最も高くなっている。「面倒だから」は地区水(37.2%)で高い。

なお、nが30サンプル未満と少ない三園系、長沢系は参考値とし、コメントからは除いている。

(5) 最寄りの給水拠点の認知度

問10 ご自宅又は事業所の最寄りの給水拠点(※)がどこかご存知ですか。次の中から**1つ選び**、番号に○をつけてください。

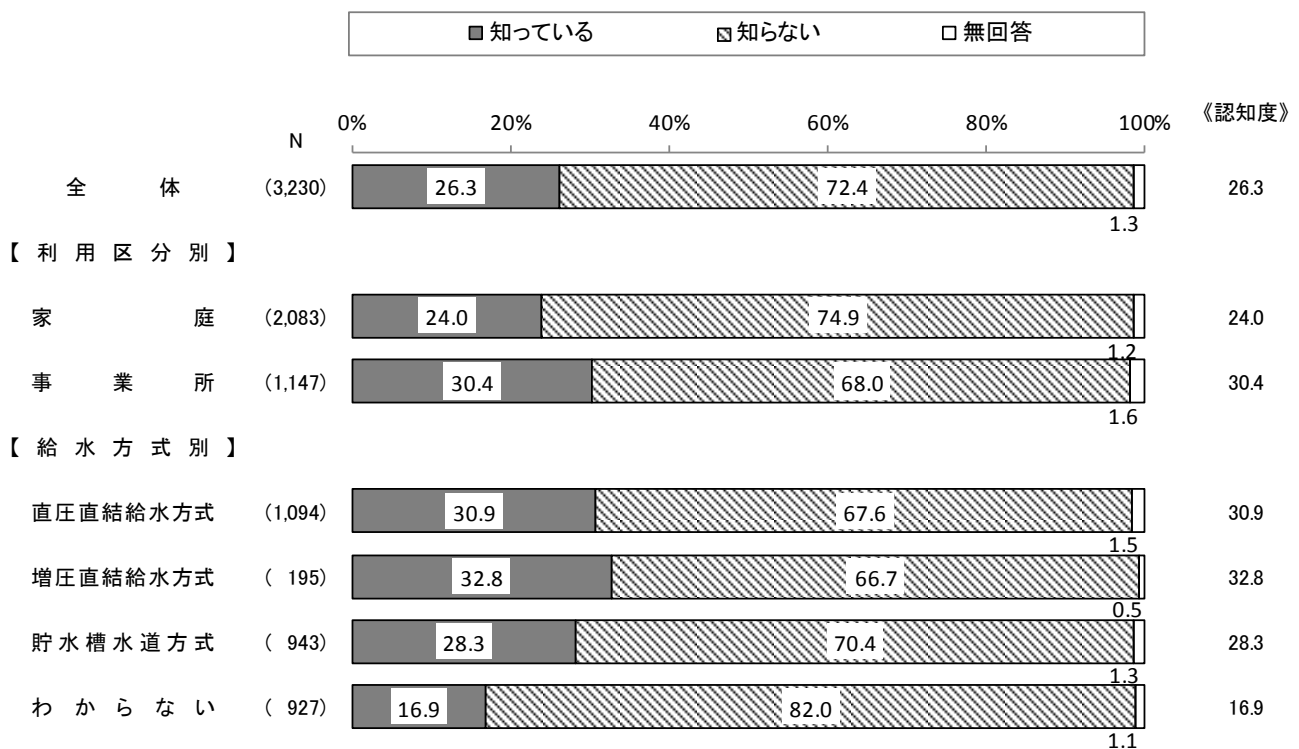
(※) 給水拠点…地震が発生し、断水になったときでも、公園の地下などにある応急給水槽や浄水場・給水所などで応急給水を受けることができる場所のこと(都内に約200か所存在)。

1 知っている

2 知らない

[調査結果]

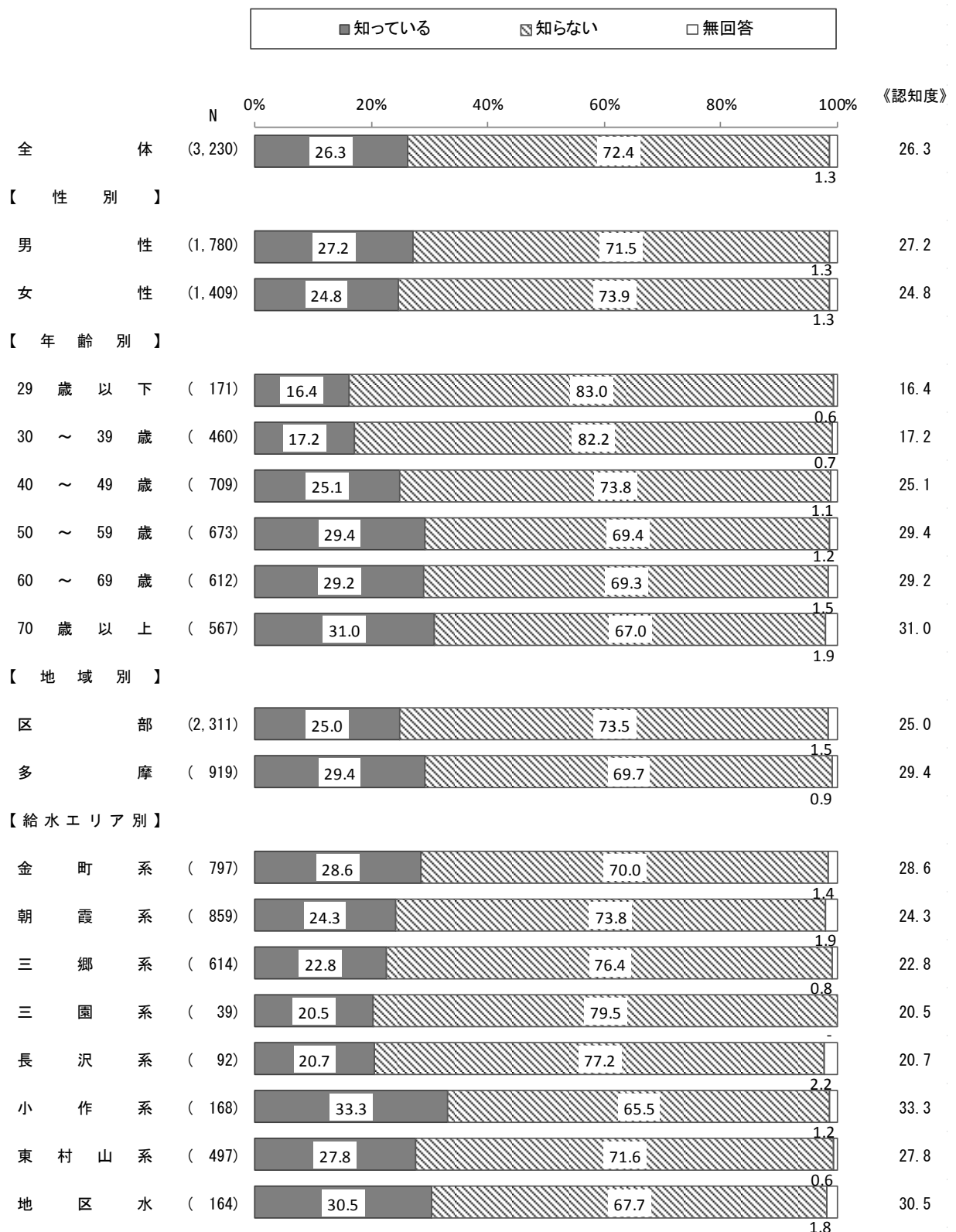
① 最寄りの給水拠点の認知度(利用区分別、給水方式別)〈図表2-4-14〉



<特徴>

○利用区分別では、「知っている」は、事業所(30.4%)の方が家庭(24.0%)より6.4ポイント高くなっている。

② 最寄りの給水拠点の認知度（属性別、給水エリア別）〈図表2-4-15〉

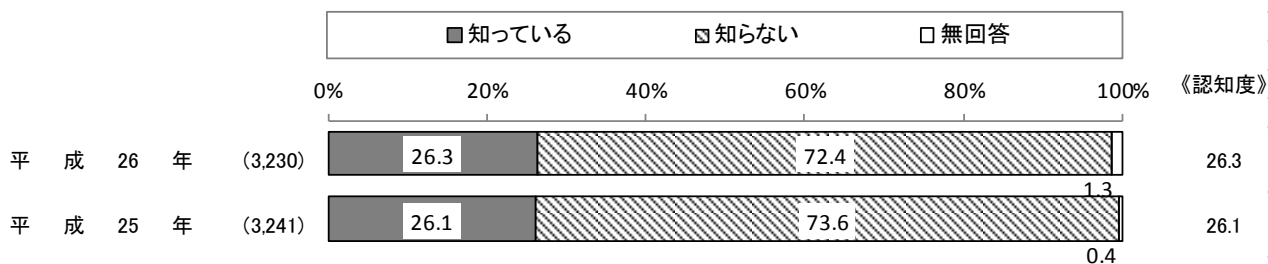


〈特徴〉

○年齢別では、「知っている」は、年齢が上がるにつれ割合も高くなり、70歳以上（31.0%）で最も高くなっている。

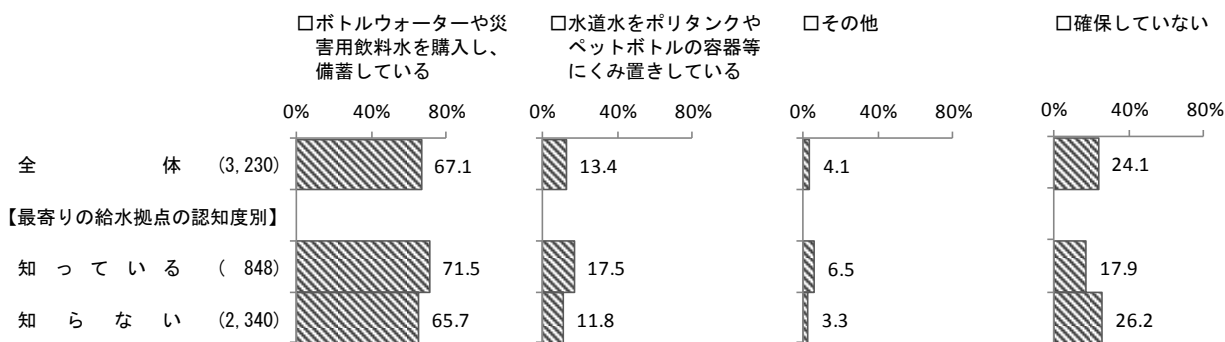
○給水エリア別では、「知っている」は、小作系（33.3%）、地区水（30.5%）、金町系（28.6%）などで高くなっている。

③ 最寄りの給水拠点の認知度（時系列：全体）〈図表 2-4-16〉



[詳細分析]

震災等に備えた「飲料水」の確保状況と最寄りの給水拠点の認知度〈図表 2-4-17〉



<特徴>

○震災等に備えた「飲料水」の確保状況について、最寄りの給水拠点の認知度別で見ると、「ボトルウォーターや災害用飲料水を購入し、備蓄している」は、最寄りの給水拠点を「知っている」と回答した人（71.5%）の方が「知らない」と回答した人（65.7%）よりも5.8ポイント高くなっている。また、「水道水をポリタンクやペットボトルの容器等にくみ置きしている」でも、最寄りの給水拠点を「知っている」と回答した人（17.5%）の方が「知らない」と回答した人（11.8%）よりも5.7ポイント高くなっている。逆に、「確保していない」は、最寄りの給水拠点を「知らない」と回答した人（26.2%）の方が「知っている」と回答した人（17.9%）よりも8.3ポイント高くなっている。